

デジタル委員会 次第

日時：令和8年1月15日(木) 13:00～

場所：日田商工会館 2階 会頭室

1. 委員長挨拶

2. 議題

○副委員長の選任について

○委員会事業について

1) 3年後ビジョンの共有と合意形成

2) デジタル&AI化の目的の再確認

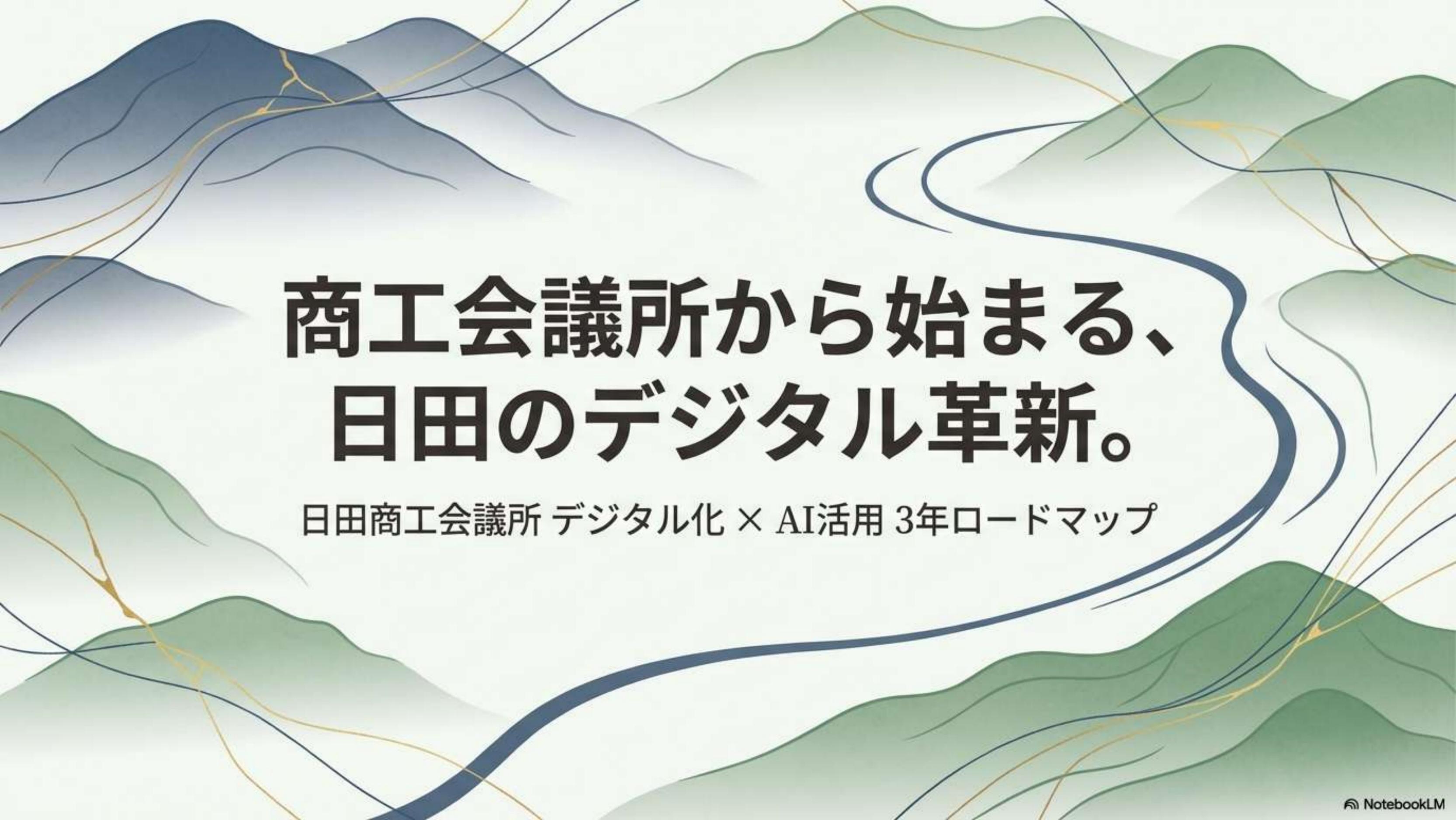
3) 職員の現状課題に関する仮説出し

4) 1年目の最優先アクションの決定

5) 調査・ヒアリング担当の役割分担

○その他

3. 閉会



商工会議所から始まる、 日田のデジタル革新。

日田商工会議所 デジタル化 × AI活用 3年ロードマップ

3年後の私たちが目指す姿

職員全員がデジタルとAIを使いこなし、
商工会議所が「地域のAI・DX支援拠点」となる。



業務の革新

職員の事務作業はAIで大幅
効率化され、創出された
時間は「企業支援」という
本来の業務に注力できる。



組織の進化

商工会議所自体が、
地域に誇れる“AI活用
のモデル組織”へと
進化する。



地域への貢献

私たちの変革が地域企業へと広
がり、日田市全体のデジタル・AI
リテラシーを向上させる「地域
DXのハブ」として認知される。

私たちの変革を成功させる、唯一の原則

**まず、私たち自身が
AIを使いこなす。**

内部の業務効率化とスキル向上

**次に、その力で
地域企業を支援する。**

地域全体への価値提供と波及効果

この順番が、日田市全体の生産性向上を実現する最も確実な道筋です。

3年間で実現する変革のロードマップ

Year 3: 組織定着 × 地域へのAI波及
地域を支援する「DXハブ」としての役割を確立

Year 2: 実務活用 × チーム特化AI
仕事でAIを使いこなし、「成果」を出す段階へ

Year 1: 基礎力 × AI導入の土台づくり
職員全員がAIに触れ、使える「土台」を作る

[YEAR 1] 基礎力 × AI導入の土台づくり

職員全員がデジタルとAIに触れ、使える「基本体力」をつくる。



1. 現状把握

- 職員のデジタルスキルチェック (Excel, email, cloud tools, etc.)
- AIへの抵抗感や使用経験を調査
- 各チームの業務課題を整理



2. 基礎デジタル研修

- クラウドツール活用 (Google Drive, shared folders)
- オンライン会議ツールの習熟
- 情報管理とセキュリティの基礎



3. AIの入口研修

- ChatGPT (文章作成、議事録、要約)
- Excel × AI (関数生成、表作成)
- Google × AI (メール返信、自動提案)

Key Habit to Build

「日常業務でAIを1日3回使う」習慣化

Expected Outcome

商工会議所が“AIを使える組織”としての第一歩を踏み出す。

[YEAR 2] 実務活用 × チーム特化AI

職員が業務ごとにAIを使い分け、実務の効率化と高度化を達成する。

事務職員向け

(For Administrative Staff)

- 文書作成AI、会議資料作成AIの活用
- 業務フローのAI自動化
- AIによるデータ整理・月次レポート作成

企業支援チーム向け

(For Enterprise Support Team)

- SNS・GoogleビジネスのAI分析・投稿案作成
- 補助金申請の文章生成補助
- DX相談にAIで同行支援



AI活用の実務運用ルールを策定

(Establish practical operational rules for AI use - guidelines, security, recommended tools list).



「AIで業務を何%削減できたか？」の評価制度を導入。(Noto Serif JP Regular).

2年目の終わり、私たちは大きな成果を手にします。

20-30%

業務時間の削減

- AIの本格活用により、定型的な事務作業や資料作成の時間が大幅に短縮されます。
- この時間で、私たちはより付加価値の高い「企業支援」活動に集中できるようになります。

企業支援が“AIアドバイス付き”に進化し、支援の質とスピードが向上します。

[YEAR 3] 組織定着 × 地域へのAI波及

商工会議所が地域DX・AI支援の中心となり、「地域DXハブ」として確立する。



地域企業への直接支援

- AI相談窓口の設置
- 中小企業向けAI活用セミナーを開催
- 商工会議所主導のAI導入モデル企業を創出



内部プロセスの完成

- 各部署でAIが標準ツールとして定着
- デジタル+AIの業務標準マニュアルを完成



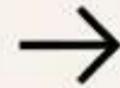
地域連携体制の構築

- 市役所、金融機関との「AI経営サポート」連携
- IT事業者や教育機関との協力関係を強化

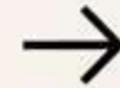
日田市が“中小企業もAIを使える地域”へ。

3年間の歩みと、その成果

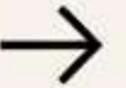
土台づくり
(Foundation Building)



実務活用
(Practical Application)



地域展開
(Regional Expansion)



成果 (Outcome)

職員全員がAIを日常的に使用する「AIに抵抗がない組織」になる。

成果 (Outcome)

業務時間を**20-30%削減**し、創出した時間で企業支援の質とスピードを向上させる。

成果 (Outcome)

商工会議所が「地域DX・AIの中核支援機関」として定着し、日田市全体のデジタル化を牽引する。

そして、これが私たち委員会の使命です



“まず商工会議所がAIを使いこなす” → “地域企業へ広がる”
この構造を3年間で完成させること。

このロードマップを推進し、日田の未来を創るエンジンとなるのが、
この「デジタル化・AI委員会」です。

さあ、始めよう。最初の委員会で決定すべきこと。

- 1 3年後ビジョンの共有と合意形成
- 2 デジタル&AI化の目的の再確認
- 3 職員の現状課題に関する仮説出し
- 4 1年目の最優先アクションの決定
- 5 調査・ヒアリング担当の役割分担

毎回の委員会のアジェンダ

- AI活用状況の共有（成功／課題）
- 職員からの声・課題の収集
- 月次アクション（研修・改善）の決定



**商工会議所から始まる、
日田のデジタル革新。**

商工会議所から始まる、日田のデジタル革命 3年ロードマップ



1年目:基礎を固める
(INTERNAL BASE)

**まずは職員から。
AIを使う「土台」づくり。**

金議員がデジタル研修を受け、
AIを日常的に使う習慣を身につけます。



**「AIに抵抗が
ない組織」
になる。**

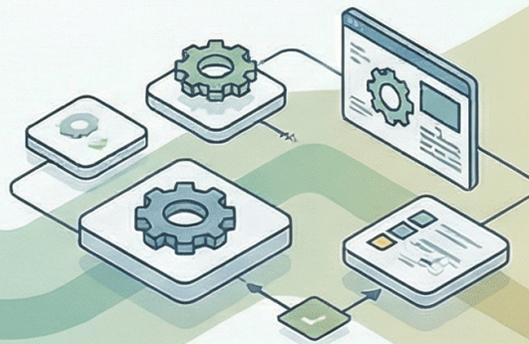
商工会議所がAIを使える組織
としての第一歩を読み出します。



2年目:仕事で使いこなす
(PRACTICAL USE)

チームごとに専門的なAI活用へ。

事務作業の自動化や、
企業支援の分析などでAIが活躍します。



20-30%

業務時間を20-30%削減。

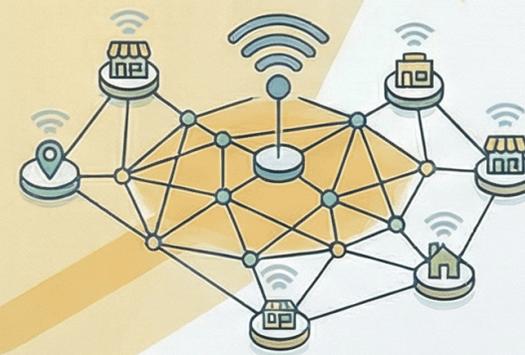
創出された時間で、より質の高い
企業支援を実現します。



3年目:地域へ広げる
(REGIONAL IMPACT)

**地域企業へのデジタル・
AI支援を本格化。**

AI相談窓口の設置や、
中小企業向けセミナーを開催します。



**日田市全体が
「デジタルが当たり前の未来」へ。**

商工会議所が「地域DXのハブ」として、
市金体の発展を牽引します。

日田商工会議所のO A機器関連の管理状況

令和8年1月13日

- 職員全員に一台ずつP C割り当て、データサーバを中心とした所内L A Nを構築
- データサーバはリース物件だが、当初のリース期間を終了しており、再リースにて継続使用中。
- 職員が作成したファイル等のデータはサーバ内の事業・業務ごとに作成されているフォルダに保存している。サーバ内のデータは毎日深夜に外付けのH Dにバックアップしている。

※データサーバの再リース料 約 4万円/年

※P C等リース料 約65万円/年（一般：28万、相談所：34万、労保：4万）

- セキュリティに関しては、全P Cとサーバを「ウィルスバスター」で保護。毎年最新版に更新。

※費用総額 約12万円/年

- 商工会議所基幹業務管理システム（T O A S）の活用

・会員事業所情報管理、会費等請求処理、各会計の経理処理、相談所業務管理・集計等

※利用料（データベースソフト使用料含） 約7.5万円/年

- ネットワーク・ハードウェア・ソフトウェアの管理については、大分交通(株)情報システム営業部

※保守料 18万円/年（アドオン等個別のファイル等作成料含）